

人格の完成を意識した実践をする

いずみ学力研 金井 敬之

学力形成と人格形成

学力形成と人格形成の関係は、ずっと以前から教育実践の課題とされてきた（と思う）。

ただ、学力とは何か、人格とは何かということを定義することは、それぞれの研究者や実践家の考え方やとらえ方の違いがあり明確にすることは困難である。

今回は、学力形成を読み書き計算の学力の基礎とテストなどで表される学業成績を高める取り組みと考え、人格形成を将来大人になっても通用する力や人間として価値のある生き方ととらえることにする。

以前の自分自身の実践を振り返ってみて、学力と人格の関係を強く意識して実践したことはなかった。学力がくと人格にもいい影響を及ぼすのだらうと漠然と考えていた。実際、学業成績がいい子たちは、落ちこぼる学力が低い子は落ちこぼるのこの

と、友だちにもやさしい、素直な子が多いというのが、実感だからである。

2年前、4年生を担任した新学期早々、「教育の目的は人格の完成である」ということを改めて意識する出来事があった。それは、初任者の先生に「宿題忘れをしたときどう指導されていますか?」と尋ねられ、その質問に答えたことがきっかけである。

宿題を忘れたら何は

ぼくは次のように答えた。

「ぼくのクラスでは、宿題と連絡帳を教卓に出すことになっている。宿題忘れに気がついたら、忘れましたと先生に報告する。」

そして、1時間目が始まる前や大休憩までにするものになっているよ。」「もちも、『宿題をしたけど持って来るのを忘れたときはどうするのですか?』「とつねに聞かれた。」「持ってこなくていいよ。」「

も、『もう一度しましょ』とつねに。」「大人になって、会社に勤めたときも、書類を仕上げましたが、持ってこなくていいよ。」「たといっても通用しないのでしましょ。」「下セルに入れるまでが宿題です。」「とぼくは答えた。

間違いや失敗はごまかさずに報告をして、その日のうちに改善する。そのことは、社会に出ても大切なことである。人格の完成につながることを。

席替えをどうするか

席替えは、毎月一回ぐい引きで行っている。視力の弱い子の配慮はもちろぬが、席替えはぐい引きである。だれと席が近くになっても協力して過ごせることは、大人になってもいろいろな人と仕事ができる人間になれると考えているからである。このことも、人格の完成につながることを考えている。

30秒スピーチ

2学期の始業式の翌日の300日に夏休みのできごとを話す「30秒スピーチ」をみんなにしてもらった。荒井賢一先生の追試である。「時計を見ながらスピーチをして、20秒以上から30秒以内なら合格です。」

